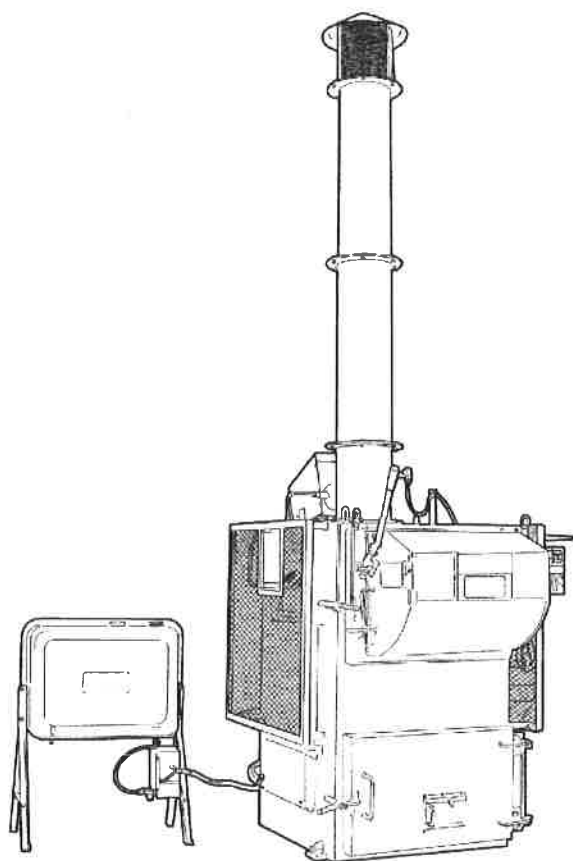


焼却炉（ダイオキシン対策型）

CI295E
CI495E

取扱説明書

（バーナーは別冊）



イラスト：CI495E

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、
本機の能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるよう
お願いいたします。また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくために、この取扱説明書を熟読の上ご使用くださいます
ようお願いいたします。また、取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

なお、バーナーにつきましては、別冊のバーナー取扱説明書をお読みください。
また、製品の向上には絶えず努力を傾けております。従いまして製品改良のため、仕様
など予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。




目次

	ページ
はじめに	1
1. 安全にお使いいただくために	2~3
2. 仕様	4
3. 外形寸法及び各部の名称	5~6
4. 設置方法と組立方法	
1) 準備	7
2) 設置方法	8
3) 組立方法	9~11
4) 外気遮断投入機 投入ハンドルの組み付け	12~13
5) 温度センサーの組み付け・調整	14
6) 燃料パイプの組み付け	15~16
5. 運転方法	
1) 燃料タンクに白灯油を入れる	17
2) 着火手順	17~22
3) 投入口の使用方法	23
4) 燃焼温度の確認	24
5) 消火手順	25
6. 保守・点検	26
7. 故障かなと思ったら 現象とその対応	27


1. 安全にお使いいただくために

安全に効率よくご使用いただくために、ご使用前に本取扱説明書の安全に関する注意事項をよくお読みください。
使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださいますようお願いいたします。

安全に関する表示について（安全に関する注意事項）
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。
必ずお読みいただき指示に従って正しく使用してください。

-  **危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの。
-  **警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。
-  **注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性のあるもの。

基本的注意事項 安全のためにこれらの注意事項を守ってください。

 警 告
<p>過労・飲酒時の作業禁止</p> <ul style="list-style-type: none">・過労や睡眠不足で体調が悪いときや、飲酒時・薬服用時の作業は、注意力が散漫になり、事故につながります。・体調が悪いときや、飲酒・薬物飲用時の作業は行わないでください。
<p>きちんとした服装・保護具の着用</p> <ul style="list-style-type: none">・だぶだぶの服・装飾品など機械部品に引っかかる可能性のあるものまた、油などの付着した作業着は引火しやすいので着用しないでください。
<p>改造はしないでください。改造は、安全上問題になることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・改造に起因する、人身事故や故障については責任を負いかねます。

⚠ 危険

危険物の焼却炉への投入禁止

- 引火性の高い物…ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉塵など。
- 爆発が起こる可能性がある物…スプレー缶、火薬、密閉された缶など。
- 毒物…水銀、ヒ素、黄リンなど。
- 劇物…クレゾール、トルエン、硝酸など。
- 上記以外にも、危険性のある物。

⚠ 警告

本機の故障や近隣の方々に御迷惑をおかけすることを避けるために、下記の使用方法を必ずお守りください。

- 絶対に投入口、灰出し扉を開けた状態で焼却しないでください。
- 絶対に塩素系化合物は、焼却しないでください。
- 1時間あたりの焼却能力以上は、焼却物を投入しないでください。
- プラスチック類の焼却は、焼却量の質量比で5%以上燃やさないでください。

⚠ 注意

- 焼却中は、二次燃焼バーナー及び燃焼スイッチ及びプロフスイッチを必ず『ON』の状態で使用してください。
(バーナー部の故障原因となります。)
- 使用前に燃料タンクの残量を確認し、不足している場合は適正な量を補給してください。
燃料タンクは出来るだけ満タンにしてください。
(燃料切れが起きるとポンプの破損の原因となります。)
- 使用状況により、耐火セメント表面の薄皮がはがれた様になることがあります。異常ではありませんのでそのままご使用ください。
- 煙突傘の金網が目詰まりしているとき、使用直後は熱くなっているため、常温まで冷ました状態で金網を掃除又は交換してください。
- 使用状況により、煙突及び二次燃焼室の塗装が剥離する場合がありますが異常ではありませんのでそのままご使用ください。

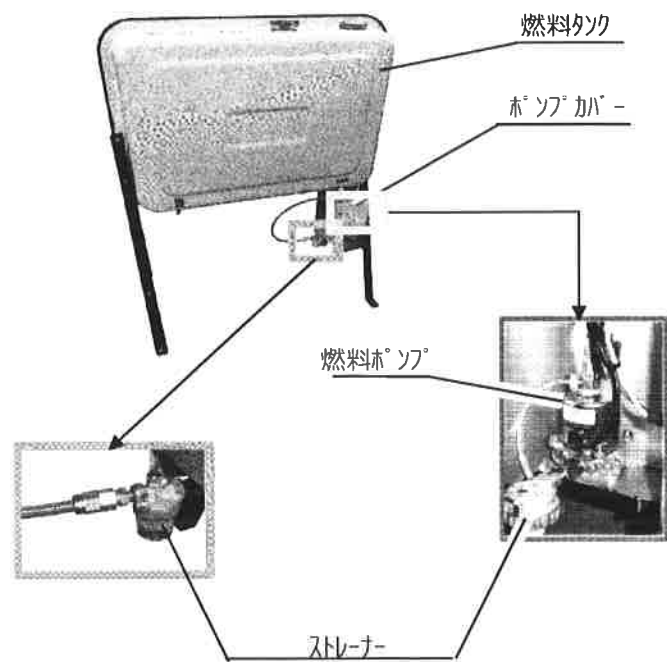
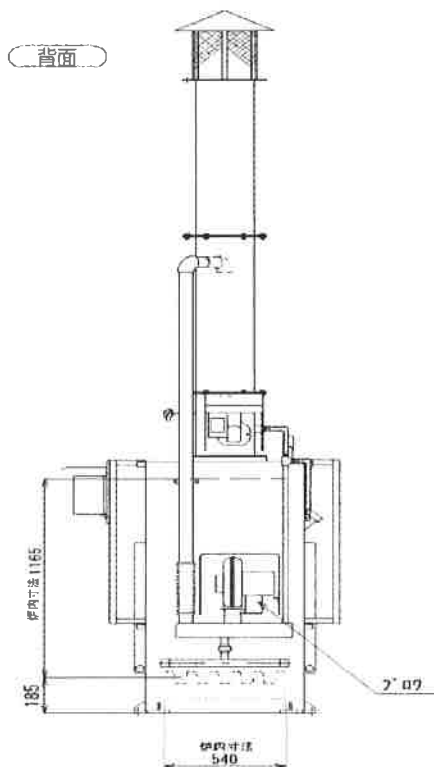
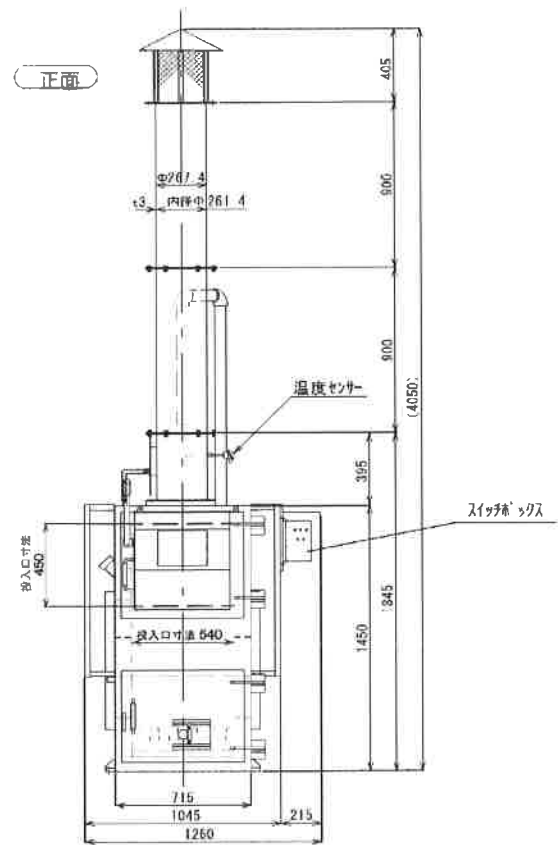
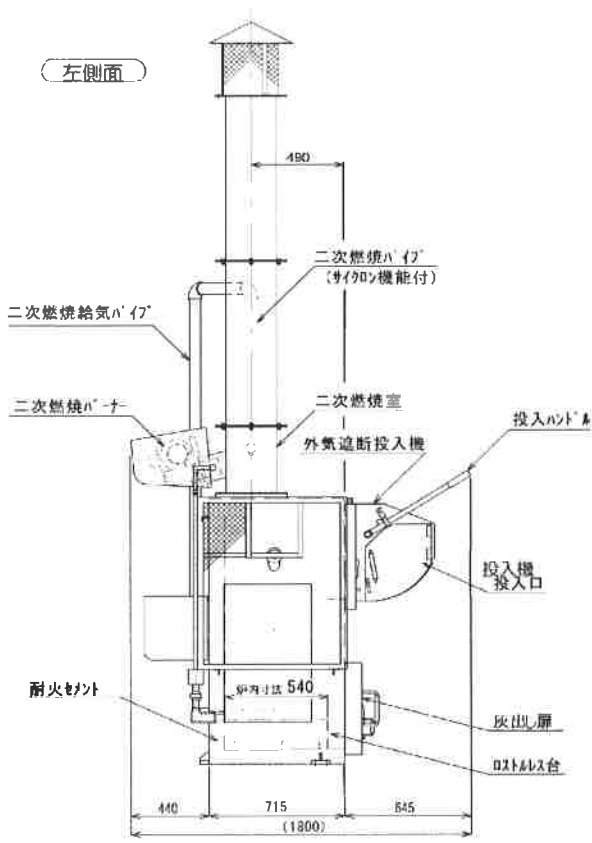
2. 仕様

型式	CI295E	CI495E
焼却能力	29.5 kg/h	49.5 kg/h
全幅	1,260mm (スリッホックスを含む)	1,395mm (スリッホックスを含む)
全奥行	1,800mm	1,950mm
全高	4,050mm (傘を含む)	4,050mm (傘を含む)
投入機投入口寸法 (一次炉投入口寸法：幅×高さ)	半径340mmの1/4の扇面積 (540×450mm)	半径340mmの1/4の扇面積 (700×450mm)
本体質量 (燃料タンクを除く)	約1,330kg	約1,670kg
ロストル面積 ※1	0.29㎡	0.49㎡
一次炉内容量 (一次炉内寸法)	0.34㎡ (0.54×0.54×1.17m)	0.57㎡ (0.7×0.7×1.16m)
使用燃料	白灯油	白灯油
燃料タンク容量	90L	90L
燃料消費量	4~6L/h	4~6L/h
電源	AC100V / 15A	AC100V / 15A
バーナー+プロア出力	330W	330W

※1：ロストル面積とは、燃焼室内の全火床（ロストル部分を含む）面積を表しています。

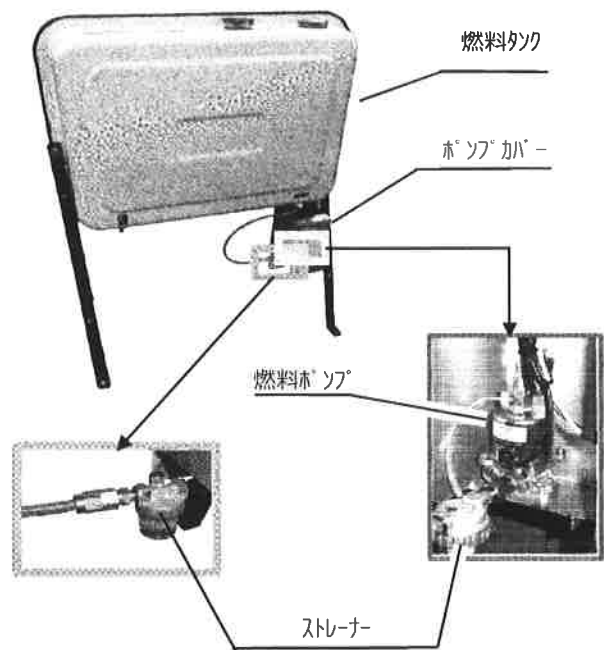
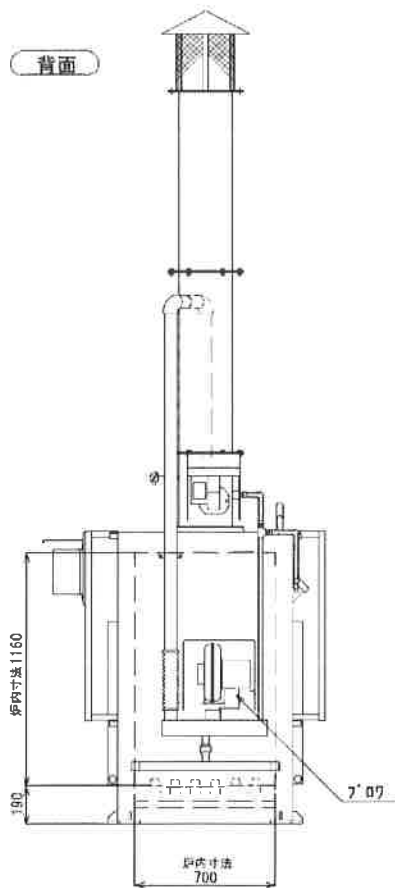
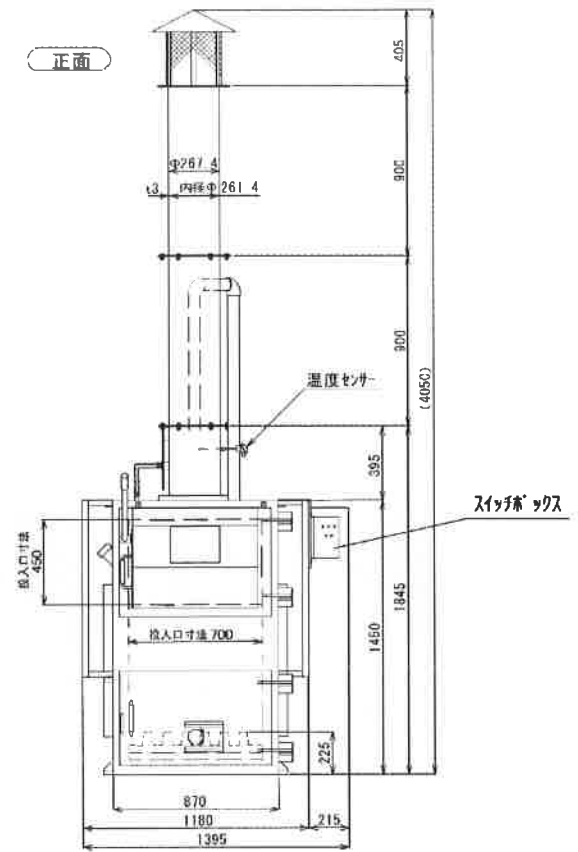
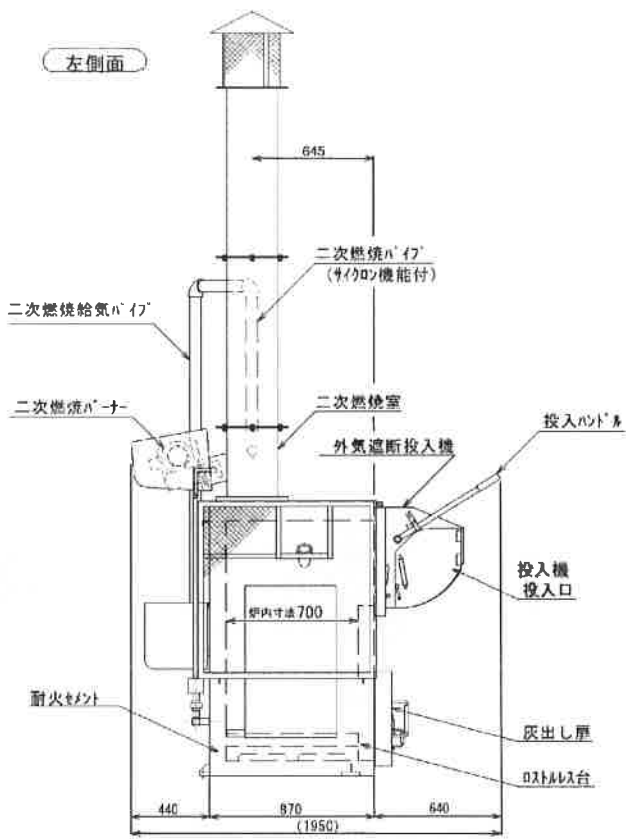
3. 外形寸法及び各部の名称

【C I 295E】



3. 外形寸法及び各部の名称

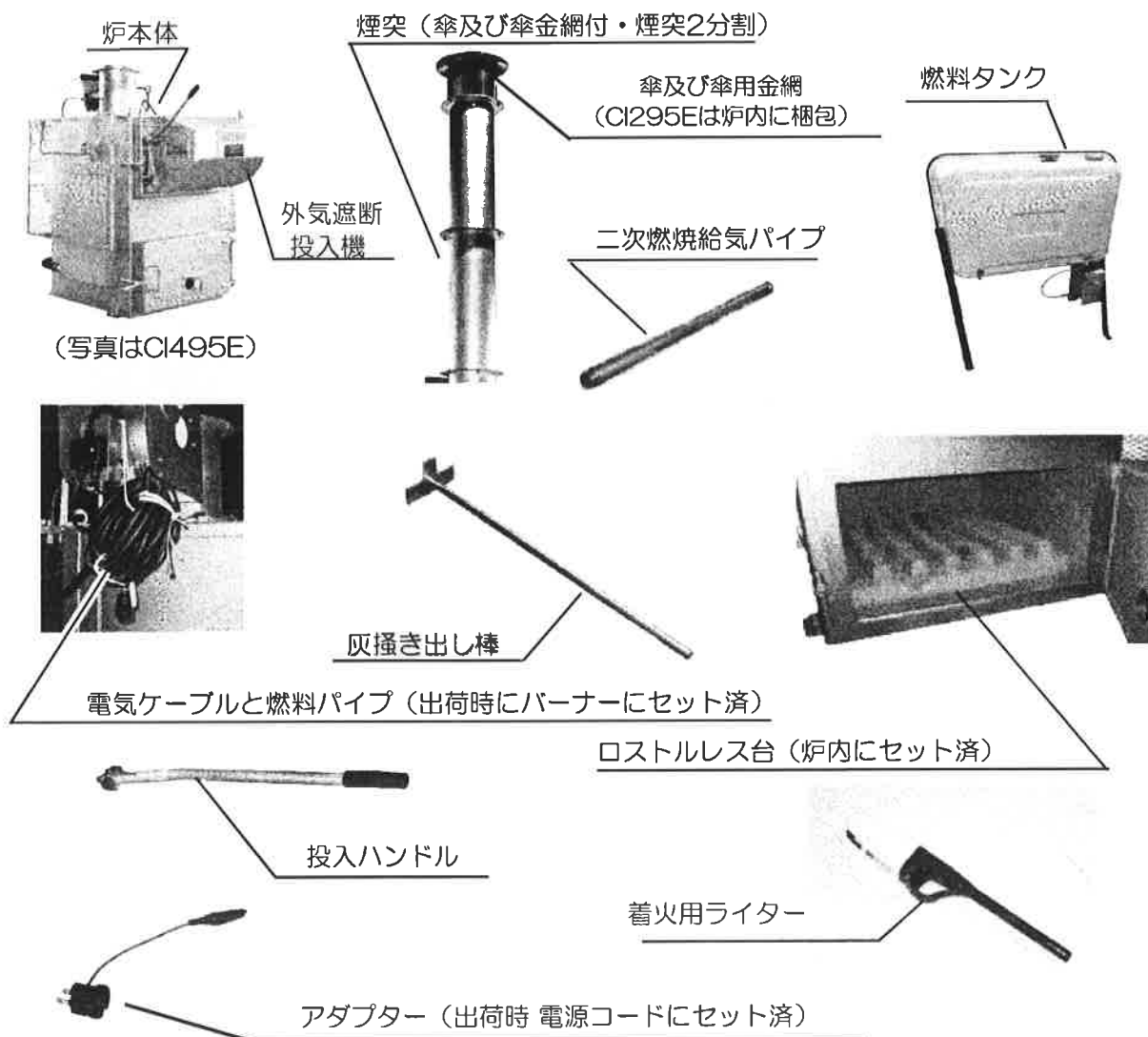
【C1495E】※図：標準タイプ



4. 設置と組立方法

1) 準備

はじめに、ご購入いただきました焼却炉の部品がすべて揃っていることをご確認ください。



	数量
(1) 炉本体 (出荷時外気遮断投入機は炉本体にセット済)	1
(2) 煙 突 (傘及び傘用金網付※CI295Eは炉内に梱包・煙突2分割)	1
(3) 二次燃焼給気パイプ	1
(4) 燃料タンク	1
(5) 電気ケーブルと燃料パイプ (出荷時にバーナーにセット済)	1
(6) 灰掻き出し棒	1
(7) ロストレス台 (炉内にセット済)	2
(8) 投入ハンドル	1
(9) アダプター (出荷時 電源コードにセット済)	1
(10) 着火用ライター	1

2) 設置方法

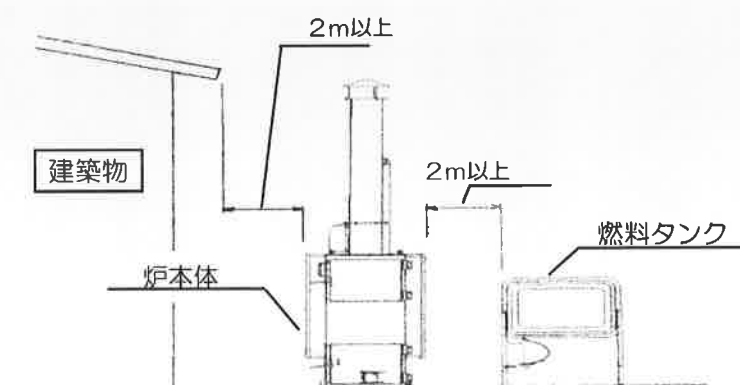
⚠ 危険

焼却炉と建築物との保有距離

消防法では焼却炉（釜戸・炉等）の設置は火災防止上、建築物から安全な距離を保つことが定められております。

また、各地方公共団体が独自に安全な距離を定めている場合もありますので確認してください。

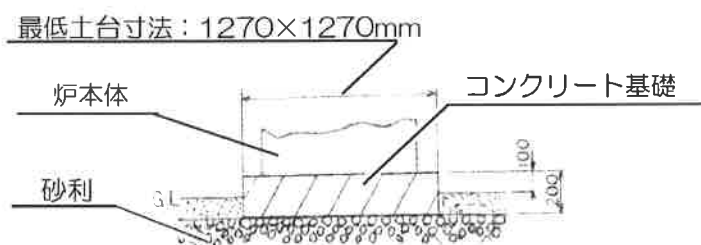
（定められている保有距離が下記以上の場合は、そちらを参考にしてください。）



炉本体と建築物等及び燃料タンクの保有距離は2m以上としてください。ただし、前方は3m以上の保有距離で設置してください。

防火壁を設ける場合もその距離を保ち、通風のため四方を塞ぐ事は絶対にしないでください。また、必ず屋外に設置してください。屋根の設置もおやめください。

設置場所が軟弱な場合は、下図を参考に基礎を作ってください。



設置は平坦な場所を選び、炉本体と燃料タンクは電気ケーブルと燃料パイプが無理なく接続できる範囲で位置を決めてください。

（必ず2m以上距離を保ってください。）

⚠ 危険

炉本体と燃料タンクは必ず2m以上距離を保ってください。

3) 組立方法

⚠ 注意

組立作業に際しての注意事項

- 組立作業は必ず2人以上で行ってください。
- すべり止めの付いた保護手袋を使用してください。
- 吊り上げ作業は玉掛け及び移動式クレーン運転技能講習終了者が行ってください。
- 煙突を吊るすときはスリングベルト等で十分に固定してください。
- 吊る前にしっかり固定されているか試してから吊り上げてください。

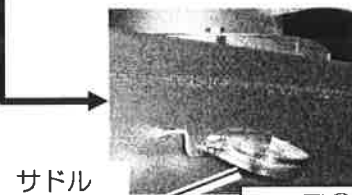
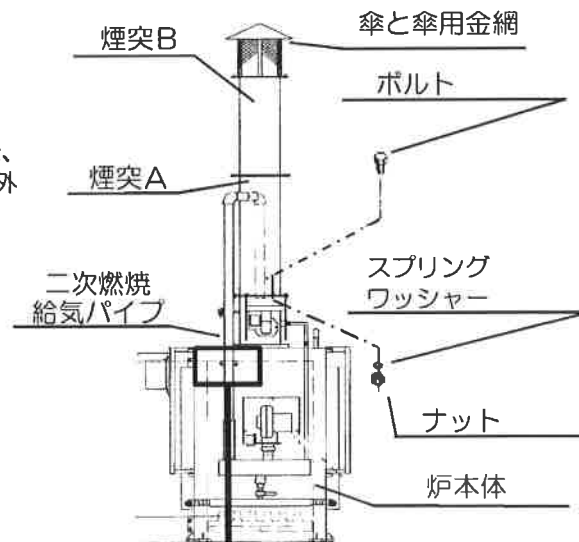
- (1) 煙突Aに二次燃焼給気パイプをねじ込み、取り付けてください。
- (2) 炉本体後部に取り付けてあるサドルを、ボックススパナまたはメガネレンチで外してください。

※図①を参照してください。
※ボルト (M6×30)、スプリングワッシャー (M6)

- (3) 煙突Aと二次燃焼室に取り付けてあるボルト (M10×25)、スプリングワッシャー (M10)、ナット (M10) 各6個を取り外してください。

※図②を参照してください。
煙突Aを二次燃焼室に乗せ、二次燃焼給気パイプがサドル取付位置に来る様に位置を合わせてください。

その後、取り外したボルトを締め付けて煙突Aを固定してください。
煙突Aを組み付けたら煙突Bを組み付けしてください。

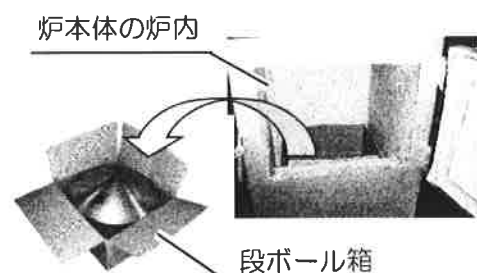


※図①

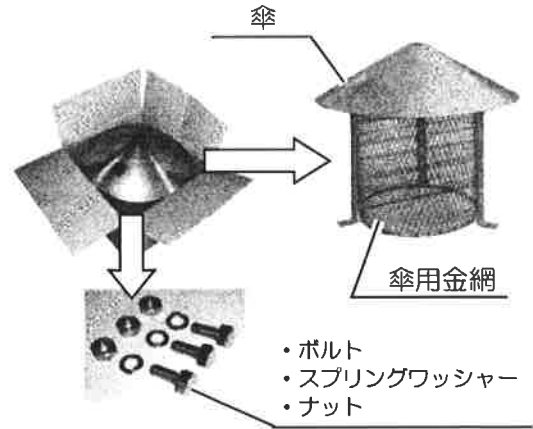


※図②

- 【CI295E型の傘と傘用金網の組付け】
- ① 傘と傘用金網及び取り付けボルトとナット、スプリングワッシャーは炉本体内の段ボール箱の中にあります。炉本体の内に入っている、傘及び傘用金網の入った段ボール箱を取り出してしてください。



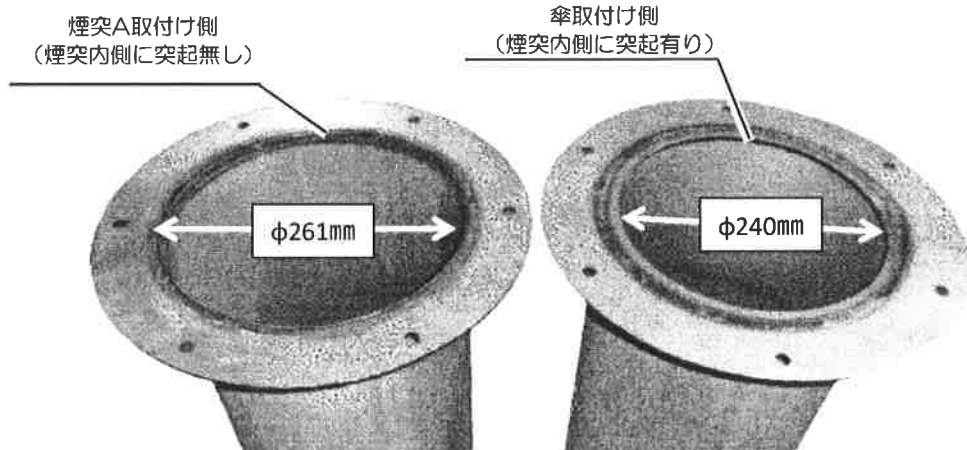
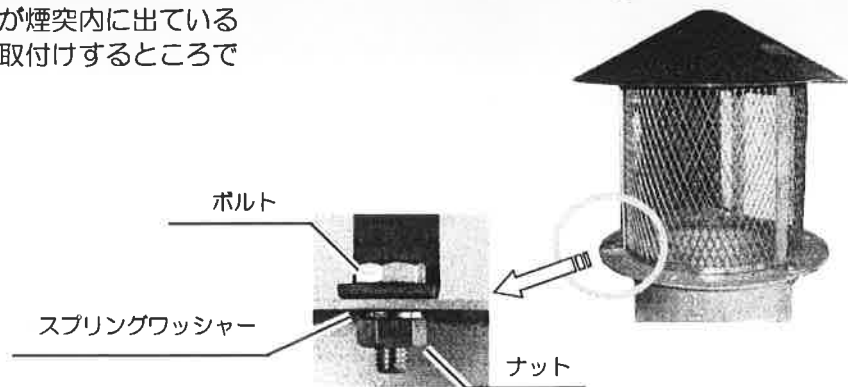
② 取り出した段ボール箱から傘と傘用金網及び取り付けボルトを取り出してください。



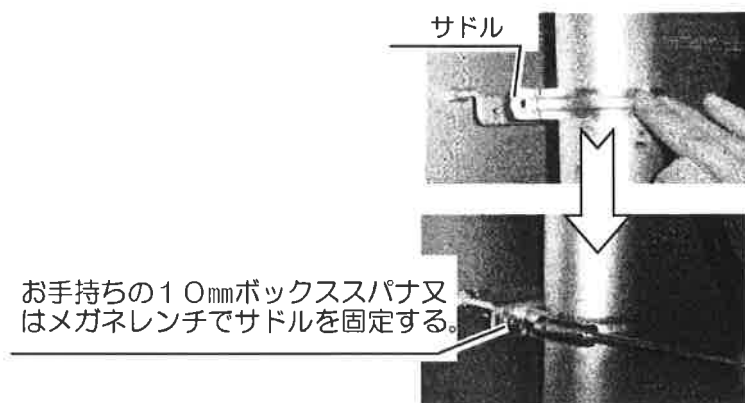
③ 取り出した傘（傘用金網がついた状態）を煙突Bに②で取り出したボルト及びスプリングワッシャーとナットを傘の脚部3カ所と煙突のフランジ部に固定してください。



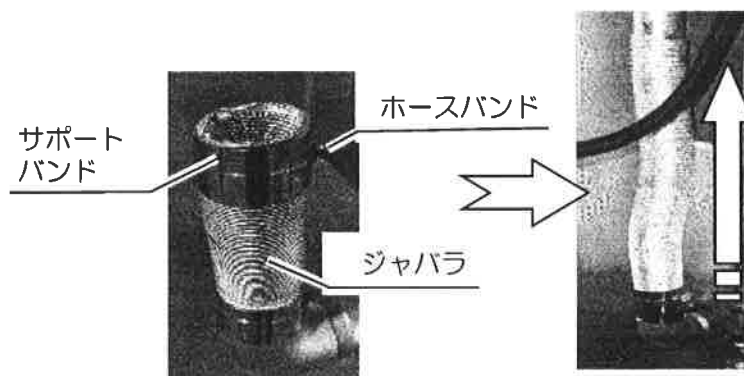
※煙突Bには、上下があります。フランジの内側が煙突内に出ている方が上側、傘を取付けるところです。



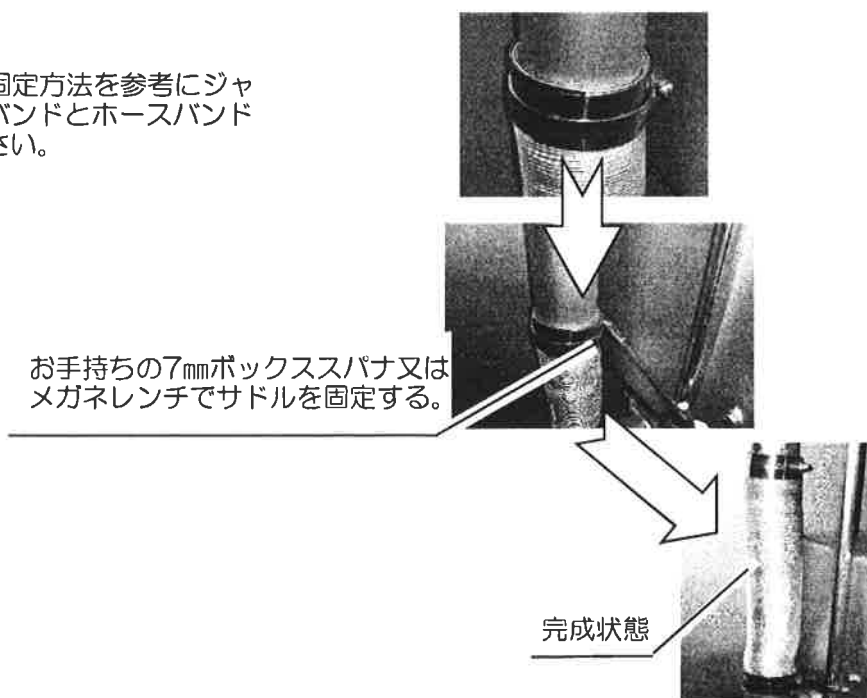
- (4) (2) で外したサドルを使い、二次燃焼給気パイプを固定してください。



- (5) 炉本体のプロワー側配管に取り付けているジャバラのビニール袋を外し、上に延ばして二次燃焼給気パイプに挿入してください。



- (6) ジャバラ下部の固定方法を参考にジャバラをサポートバンドとホースバンドで固定してください。



4) 外気遮断投入機 投入ハンドルの組み付け

(1) 投入ハンドルを梱包から外す。

⚠ 注意

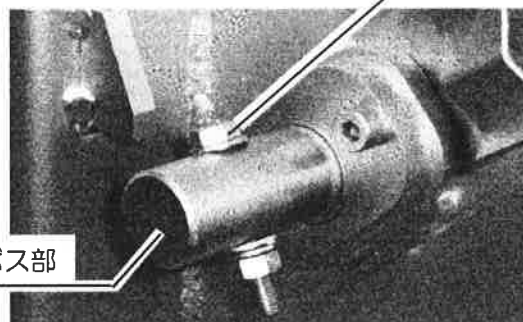
取付時は保護手袋（すべり止め仕様）帽子又はヘルメットを必ず着用してください。

投入ハンドルを梱包から外す。



(2) 外気遮断投入機ボス部に取り付けられてる六角ボルト及びプレートワッシャー・スプリングワッシャー・六角ナットを、スパナ又はメガネレンチ等の工具を使用し外してください。

ボス部に付けられたボルトを外す。



※使用工具

- ・13mmメガネレンチ×1
- ・13mmスパナ×1

(3) 外気遮断投入機ボス部に合わせ、投入ハンドルをボス部に挿入してください。

外気遮断投入機のボス部に投入ハンドルを挿入する。

シャッターシャフト受け



⚠ 危険

- ・ボス部には固定ボルトを組付けるまで手で触れないようにしてください。
- ・ハンドルとボス部又はシャッターシャフト受け等に指や手を挟み込むおそれがあります。

- (4) 外気遮断投入機ボス部と投入ハンドルの穴を合わせてください。

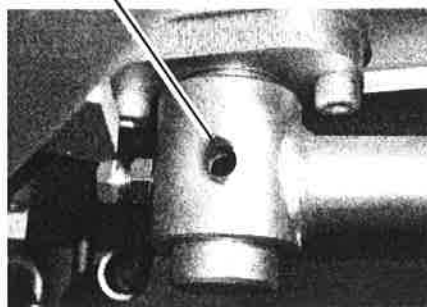
※ドライバー等を使い六角ボルト取付方向の反対側より挿入し位置を合わせてください。

※その際投入ハンドルは触らないでください。

六角ボルトがしっかり固定されるまで投入ハンドルは固定されていないので万が一動くとき手を挟むおそれがあるので注意してください。

投入ハンドルを動かす時はボス部に手が触れているとハンドルとボス部の隙間に手を挟むおそれがあるので注意してください。

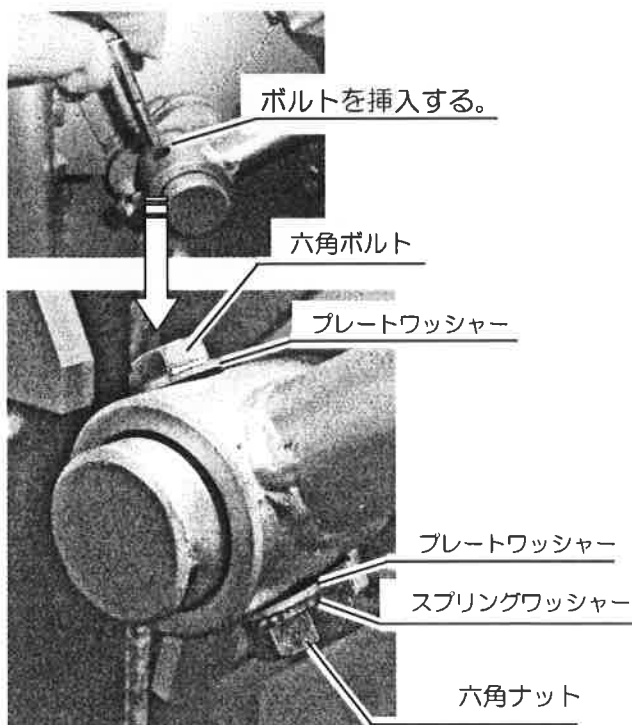
投入ハンドル固定ボルト取付穴



- (5) 合わせた穴に、六角ボルトをプラスチックハンマーで貫通するまで挿入した後、プレートワッシャー・スプリングワッシャー・六角ナットを順で組み付けてください。組み付けたら、六角ナットを締め付けてください。

※使用工具

- 13mmメガネレンチ×2
- プラスチックハンマー×1

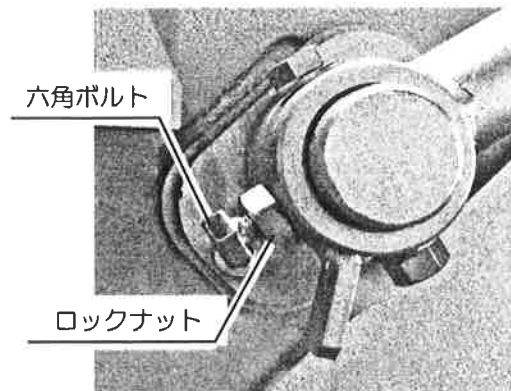


- (6) ロックナットを緩め、六角ボルトを締め付けてください。

投入ハンドルのガタつきがないように締め付けしたら、六角ボルトをメガネレンチで押さえスパナでロックナットを締め付け固定してください。

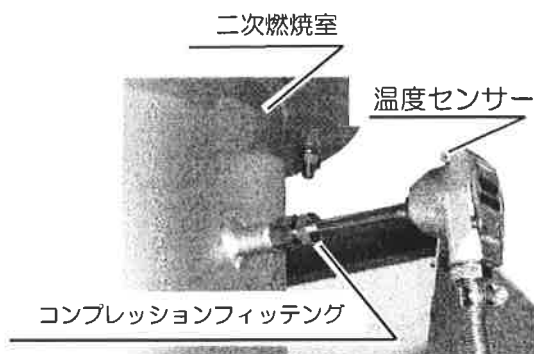
※使用工具

- 13mmメガネレンチ×1
- 13mmスパナ×1



5) 温度センサーの組み付け・調整

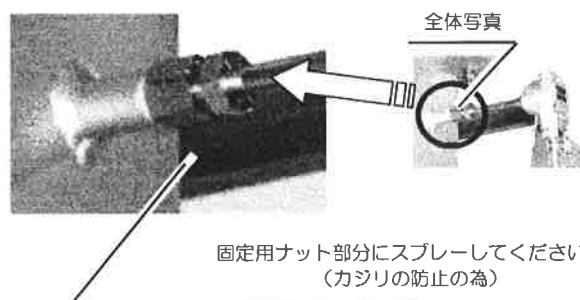
- (1) 温度センサーをコンプレッションフィッティング（以後：フィッティング）に挿入してください。



⚠ 危険

焼却炉が熱いときは、火傷や火災等のおそれがある為、中止してください。

- (2) フィッティングのセンサー固定用ナット部分に浸透性潤滑剤をスプレーしてください。



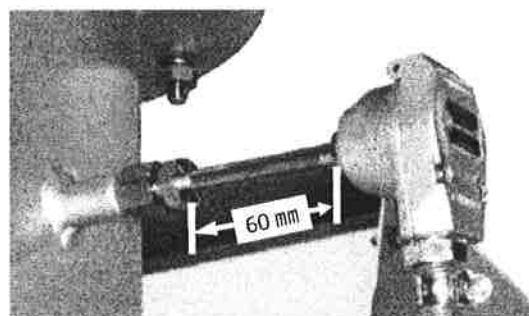
- (3) フィッティングの固定用ナットをお手持ちの17mmのスパナ2本を使用し軽く緩めてください。
(温度センサーが軽く動く位に仮締めする。)

本体が緩まないようにスパナで固定してください。



固定用ナットを締めてください。

- (4) 温度センサーをフィッティングからの距離が60mmになるように調整してください。調整したあと、(3)で緩めたフィッティングの固定用ナットは、温度センサーを手で軽く力を加えた時に動かない程度にしてください。



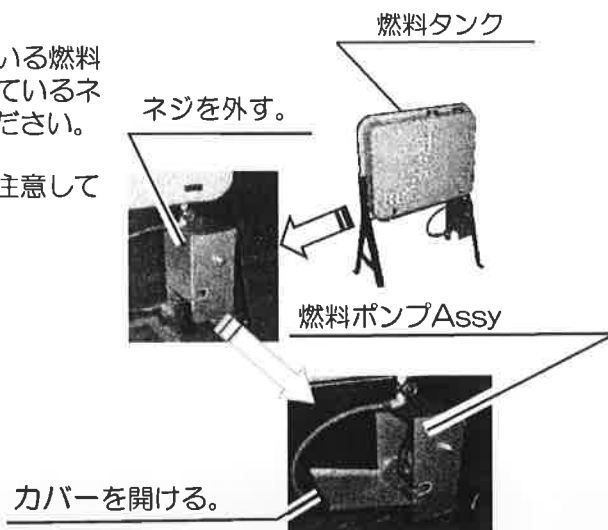
⚠ 注意

調整時に燃焼室側へ極端に近づけないよう注意してください。温度センサー破損の原因となります。

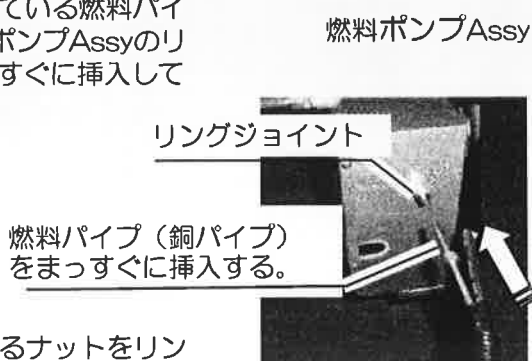
6) 燃料パイプの組み付け

- (1) 燃料タンクの下に組み付けている燃料ポンプ Assy のカバーを止めているネジを外し、カバーを開けてください。

※外したネジは紛失しないよう注意してください。



- (2) バーナー部に組み付けている燃料パイプ(銅パイプ)を、燃料ポンプ Assy のリングジョイントにまっすぐに挿入してください。



- (3) 燃料パイプに付いているナットをリングジョイントのネジ部に取り付けてください。

- (4) リングジョイントの六角部及び燃料パイプのナットをお手持ちの12mmのスパナ2本を使用して、固定してください。

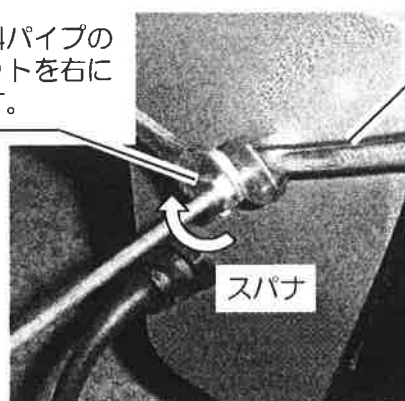
リングジョイント部のナットは、リングジョイントが回らないように固定する。

⚠ 注意

燃料パイプはまっすぐ挿入してください。

- ナットを締めすぎるとパイプ部品が変形し燃料漏れの原因となりますので、締めすぎないでください。
- ナットを固定するときには、ナットを指で締まるころまで締めした後、スパナで軽く締めつけてください。

燃料パイプのナットを右に回す。

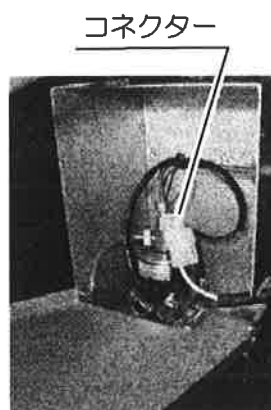


- (5) 燃料ポンプ側コネクター（オス）とバーナー側コネクター（メス）を差し込み、接続してください。

※燃料ポンプのコネクター部は、確実に接続してください。
ポンプの作動不良の原因となります。

 **警告**

燃料パイプの継ぎ手部から燃料漏れが無いことを、確認してください。
電気ケーブルは炉本体に触れないようにしてください。
燃料タンクは、炉本体より2m以上距離を保って設置してください。



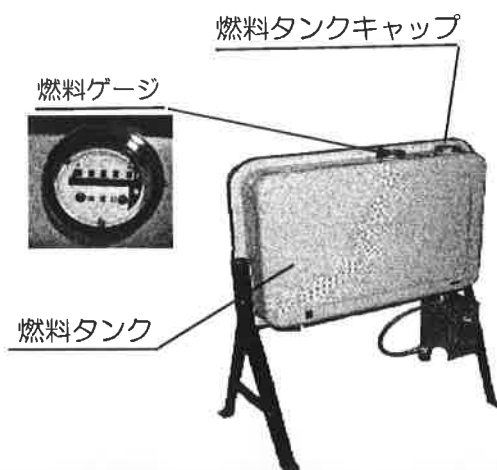
5. 運転方法

1) 燃料タンクに白灯油を入れる。

燃料タンクキャップを開け燃料を入れてください。
(タンク容量 約90L)

- 運転中は燃料を切らさないように、時々燃料ゲージを確認してください。
- 不足している場合は、適宜補給してください。

※燃料が無い状態で運転を行うと、燃料ポンプが破損しますのでご注意ください。



⚠ 警告

ガソリン・シンナー使用禁止

燃料にガソリン、シンナー等の揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。
引火して、爆発、火災の原因となり大変危険です。

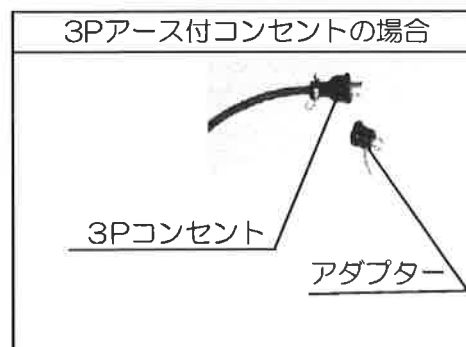
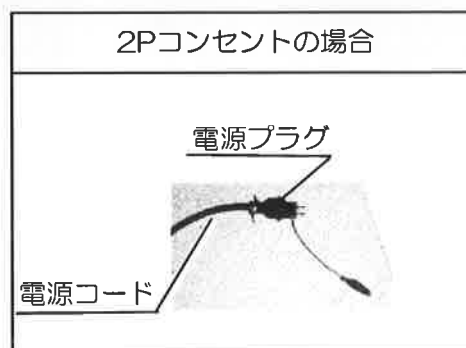
2) 着火手順

- (1) 電源プラグを電源に差し込んでください。
(AC100V)

この際に、バーナースイッチボックスのすべてのスイッチがOFFになっていることを確認してください。

2Pコンセントの場合、プラグにアダプターを取り付け差し込んでください。

3Pアース付きコンセントの場合、アダプターを外し、プラグを差し込んでください。



⚠ 警告

事故防止のため、アースを必ずとってください。
漏電やプラグ外れによる停電が無いように、確実な配線をしてください。
焼却中に停電すると不完全燃焼となり、未燃ガスが排出するおそれがあります。

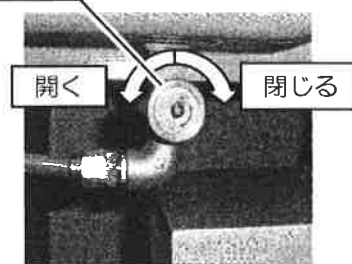
⚠ 注意

電源電圧は、AC100V±10V以内で使用してください。

(2) バーナーに点火し二次燃焼室を予熱する。

① 燃料タンク下部にある燃料バルブを全開にしてください。

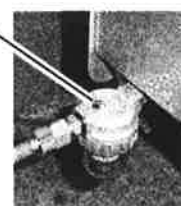
燃料バルブ



② ストレーナーに空気又は水分が混入していないかを確認してください。

(a) 空気が混入していた場合はストレーナーの空気抜きネジをマイナスドライバーで緩め内部の空気を抜いた後、ネジを締めてください。

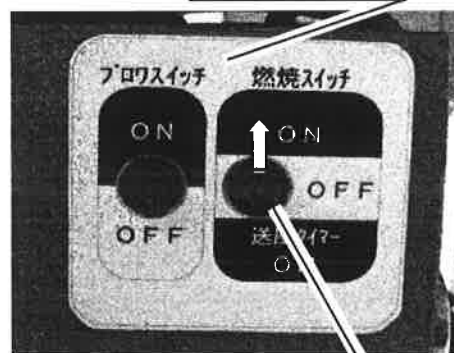
空気抜きネジ



※燃料が少し染み出たら、空気が抜けた状態になります。

(b) スイッチボックスの燃焼スイッチを『ON』にして燃料ポンプを作動させてください。

スイッチボックス



燃料ポンプの空気抜きバルブを開きノズルから燃料が出るまで空気を抜いてください。

その後バルブを閉じ、燃焼スイッチを『OFF』にしてください。

燃焼スイッチ

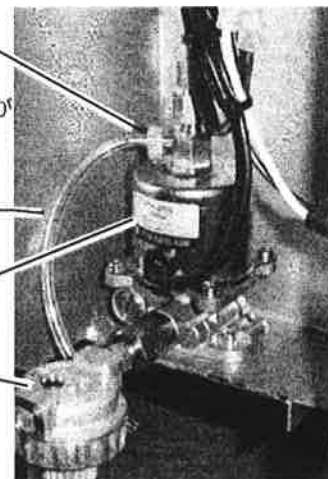
「OFF」は中央位置

空気抜きバルブ

ノズルより燃料が出たら空気抜きバルブを閉じる。

燃料ポンプ

ストレーナー



警告

作業時に、こぼれた燃料は布きれなどでふき取ってください。放置すると火災の原因となります。
燃料が無い状態で5分以上運転をしないでください。

- (c) ストレーナーの中に水分が混入していたらカップを外しストレーナー内の水分を除去し、フィルターを掃除してください。(バーナー取扱説明書：P7を参照してください)

リングを上から見て右に緩めてカップ外す。
※組付け時、カップ本体との間に、漏れ止め部品のOリングがありますので、キズや破損の無いよう分解・組み付けてください。

ストレーナー本体



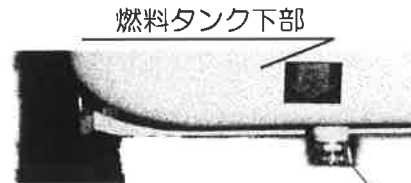
カップ

- (d) 燃料タンク内の水分を排出してください。

タンク下部にあるドレンコックを開き、タンク内の水分を排出してください。

⚠ 注意

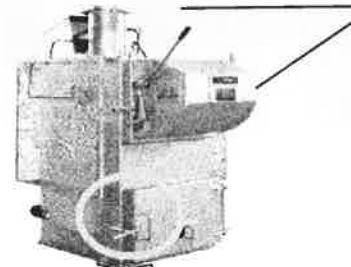
燃料タンクに水分が混入すると燃料ポンプの性能低下や、バーナーの燃焼不良原因となります。また、燃料タンクは空にならないように注意してください。



燃料タンク下部

ドレンコックのつまみを回し排水してください。

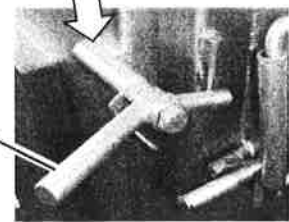
外気遮断投入機



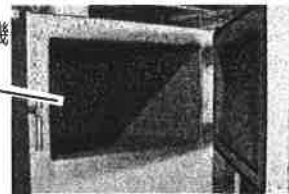
(3) 焼却の開始

- ① 焼却を開始する場合は、バーナーに着火したあと、ロックレバーを上げて解除してから外気遮断投入機を手前に引いて開いてください。
外気遮断投入機を開いたあと、炉内に焼却物を入れて付属の着火用ライターで着火してください。
焼却物に着火したら、外気遮断投入機を逆の手順で閉めてください。
プラスチック類は、木材等を燃焼させ炉内を加熱してから投入してください。

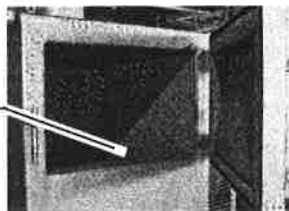
ロックレバー解除



外気遮断投入機を開く。



焼却物を投入してください。



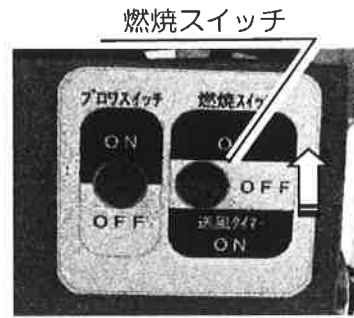
⚠ 注意

プラスチック類の1回の投入量は焼却能力の5%が限度です。それ以上投入すると黒煙が発生しやすくなります。
プラスチック類投入直後は空気口を絞ってください。その後は、黒煙が発生しないように空気口を調整してください。
※調整方法はP21を参照してください。
合板等は、発熱量が大きく炉内に投入する時は焼却能力の5%が限度です。
それ以上焼却すると、バーナーや温度センサー等の破損原因となります。

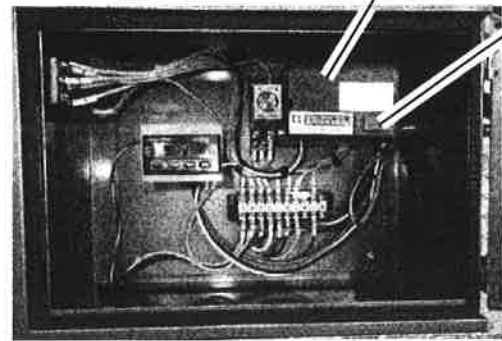
- ② スイッチボックスの燃焼スイッチを『ON』にしてください。

約25秒後に自動的に着火します。

この状態で5～6分間運転してください。



安全装置
(空うち防止装置) 赤いボタン



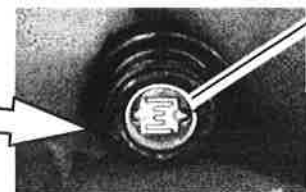
⚠ 注意

ご購入後はじめてご使用になる場合は、燃焼スイッチを操作しても燃料（白灯油）がバーナーまで届く前に安全装置が作動し、バーナーが動きませんので、スイッチボックスの蓋を開けて赤色のボタンを2～3回押しとバーナーが着火します。5回以上押ししてもバーナーが着火しないときは、購入した販売店にご連絡ください。

※着火しない原因として、バーナー背面に取りつけた、フレームアイの受光部分がススなどで汚れていて着火できない場合があります。その場合、フレームアイを引き抜き受光部に付着したススを取り除いてください。

『フレームアイ』を引き抜く。

「フレームアイの受光部」が汚れていたらきれいに掃除してください。



掃除後「フレームアイ」をバーナーに挿入する際には突起部を合わせるように挿入してください。

⚠ 危険

危険物の焼却炉への投入禁止

- ・引火性の高い物…ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉じん等
- ・爆発が起こる可能性がある物…スプレー缶、火薬、密閉された缶等
- ・毒物…水銀、ヒ素、黄リンなど
- ・劇物…クレゾール、トルエン、硝酸等
- ・上記以外にも、危険性のある物
- ・塩化ビニール製品は絶対に焼却しないでください。
塩化水素の有毒ガスが発生して大変危険です。
- ・スプレー缶等は絶対に焼却炉に入れないでください。
爆発、火災の原因となり、大変危険です。

⚠ 警告

スイッチボックスの燃焼スイッチ『OFF』状態での焼却運転は、絶対に行わないでください。
バーナー破損の原因となります。

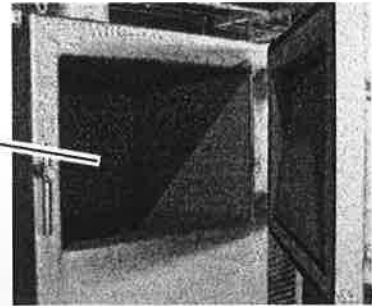
⚠ 警告

- 作業時、扉に指等を挟まないように注意してください。
- 焼却中は投入口や灰出し扉を開かないでください。
- 各扉を閉じる時は、パッキンに投入物を挟まないようにしてください。

- ③ 外気遮断投入機を開き炉内の焼却物に火種を入れ、着火します。
焼却物が完全に燃焼し始めたことを確認してください。

火種を入れ着火し、外気遮断投入機を閉める。

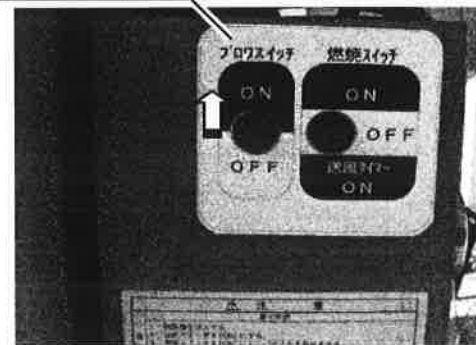
※焼却物が完全に燃焼し始めたことを確認してください。



- ④ 外気遮断投入機を閉め、次にスイッチボックスのブロフスイッチを『ON』にしてください。

(一次給気バルブの開き方は出荷状態では全開になっています。) 通常、全開のまま使用します。
※P18の写真を参照してください。

ブロフスイッチ

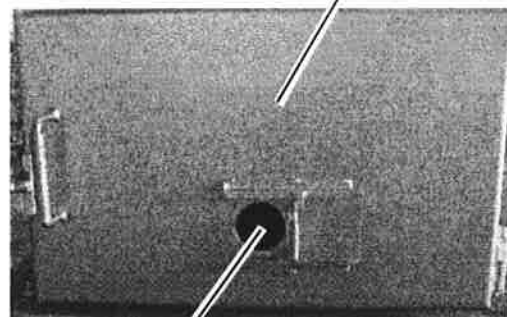


- ⑤ 煙突から煙・炎が出る場合は、煙・炎が出ない程度に、空気口の開き具合を調整してください。

空気口は大きく開くほど、燃焼は早くなりますが煙突から出る煙の量が増えます。煙・炎の出具合によりバランスを取りながら調整してください。

紙・木材・ダンボール等は、空気口の開きを大きく、油布ゴム・プラスチック・合板等は、小さくします。

灰出し扉

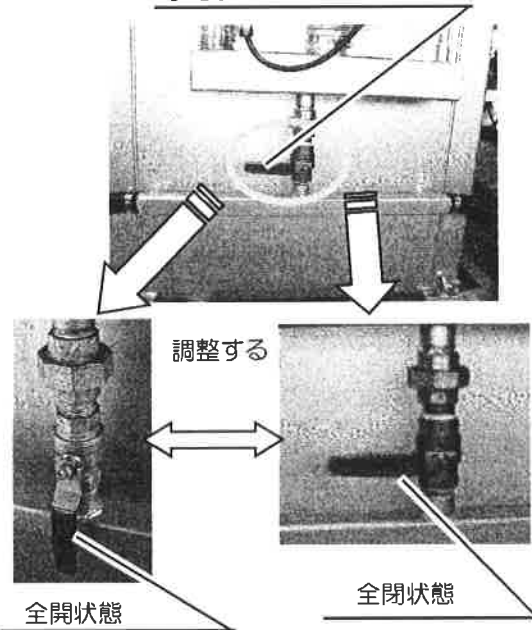


空気口

⚠ 警告

- 焼却中は、炉本体の外気遮断投入機は開けないでください。
急激に炉内に酸素が送り込まれると、炎が吹き出し、火傷をするおそれがあります。
- 炉本体、煙突に手を触れないでください。
高温のため、火傷をするおそれがあります。
- 空気口や一次給気バルブを、必要以上に開けないでください。
不完全燃焼の未燃ガスがバックファイヤーを起こし、火傷をするおそれがあります。

通常は全開にて使用
煙突より煙・炎が出る場合
一次給気バルブを閉じ調整
する。



⚠ 注意

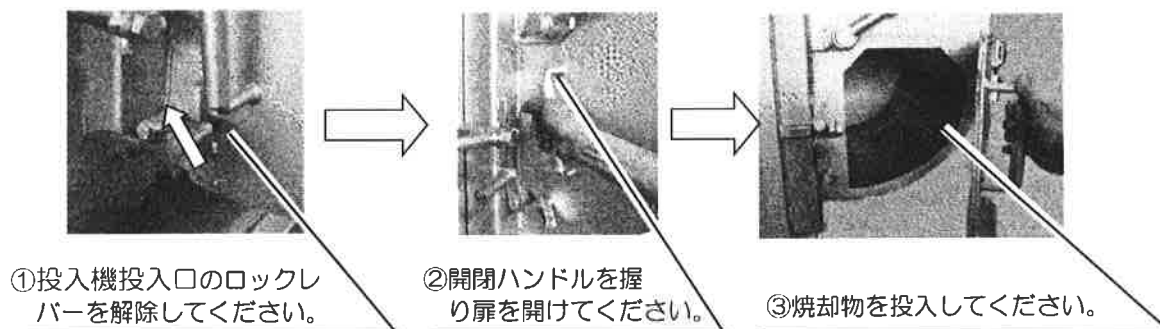
使い始めの注意点

- 3日間位は1時間あたりの焼却物の投入量を木材約5kg程度にして
ならし運転を行ってください。
- 急激に炉内温度を上昇させると、耐火セメントが脱水し蒸気化が急激に
起こり炉壁内に大きな蒸気圧が発生することで、そのエネルギーによって
爆裂のような現象が起こり、炉壁を破損することがあります。
- 3日間位は本体（炉本体）底部、投入口（外気遮断投入機）裏側の耐火セメントから
水滴が出る事があります。
これは耐火セメントの水分が高熱によりにじみ出たものであり、異常では
ありません。
- 1週間位の間には炉本体や投入口（投入機）及び灰出口（下扉）裏側の耐火セメント部に
割れ（ヘアークラック）が入ることがありますが異常ではありません。
- 使用状況により、煙突及び二次燃焼室の塗装が剥離する場合がありますが異常では
ありませんのでそのままご使用ください。

3) 投入口の使用法

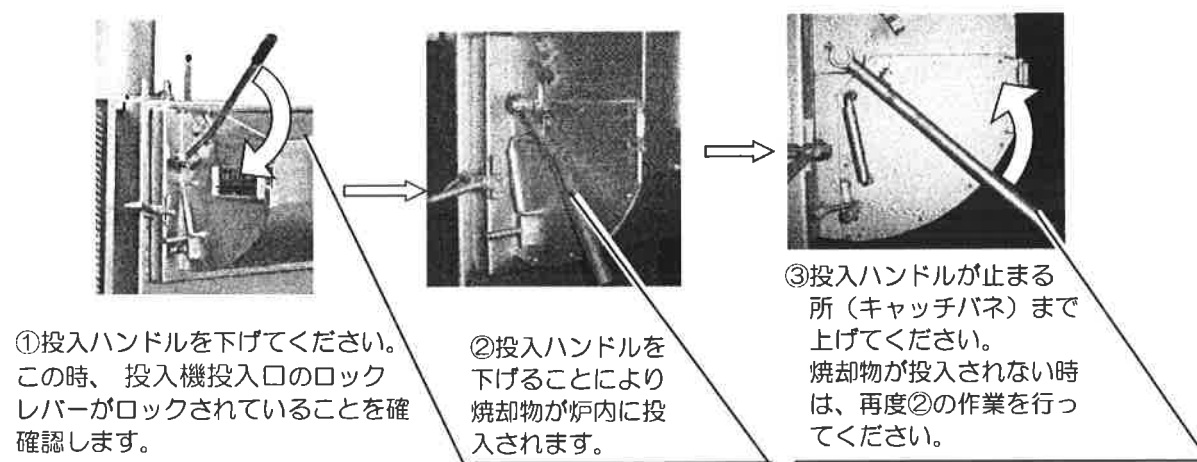
(1) 投入機投入口より焼却物の投入。

投入機投入口のロックレバーを上げてロックを解除し、扉を開け焼却物を投入します。



(2) 投入ハンドルを操作し焼却物を投入してください。

投入ハンドルを下げることにより焼却物が焼却炉内に投入されます。

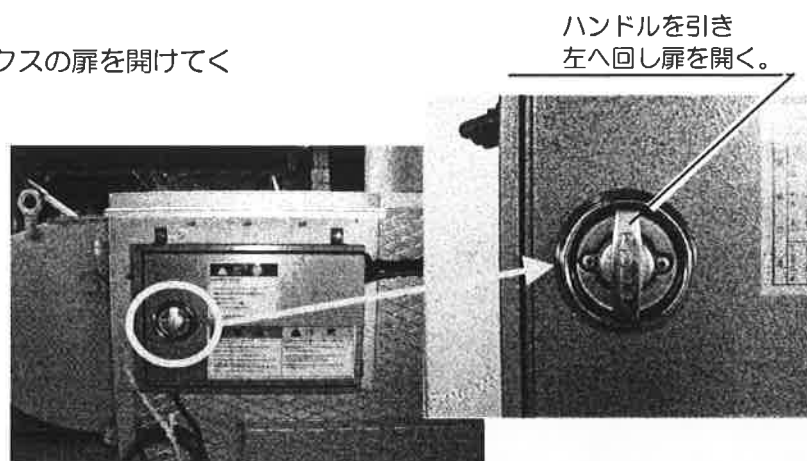


⚠ 注意

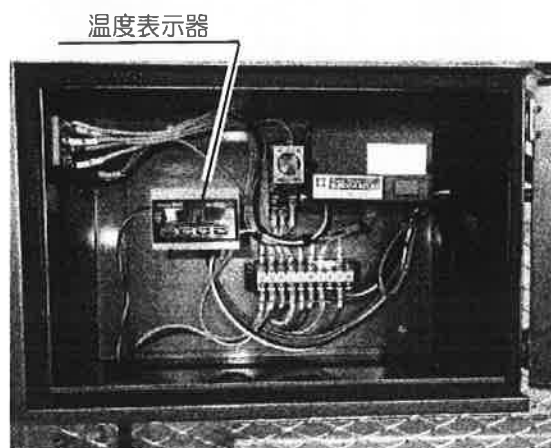
- 事故防止のため、投入扉を開けた状態では、投入ハンドルが投入扉に当たり、投入ハンドルが下がらず焼却物が投入できない構造になっています。投入扉を開口時、投入ハンドルを操作しないでください。投入扉の破損や、投入扉に隙間ができシール不良の原因になります。
- 投入ハンドルを押し込んだ状態で外気遮断投入機を開閉しないでください。炉内の耐火セメントを傷つけるおそれがあります。
- 指や手などを挟まない様、注意してください。けがをするおそれがあります。

4) 燃焼温度の確認

- (1) スイッチボックスの扉を開けてください。



- (2) スイッチボックス内にある温度表示器の温度が、800~900℃であることを確認してください。



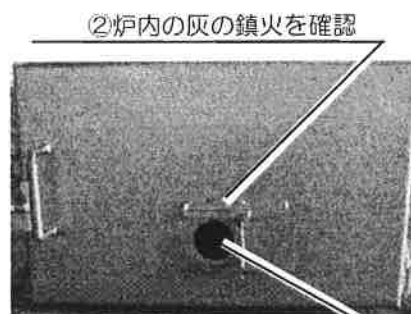
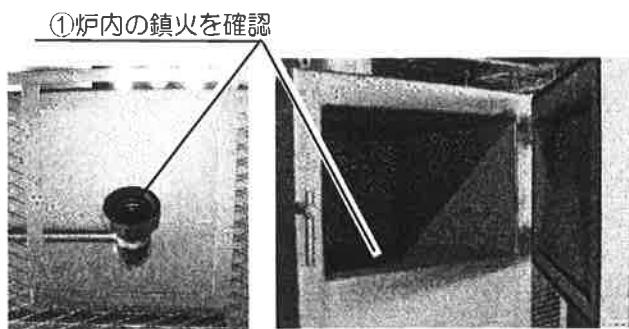
⚠ 警告

- 雨天や積雪等の天候時は扉を開けないでください。感電のおそれがあります。
- ボックス内はAC100Vの電気が流れていますのでボックス内には手を入れないように注意してください。感電のおそれがあります。
- 温度指示計のボタン操作は行わないでください。正常な温度を表示しなくなります。

5) 消火手順

- (1) 側面に設置されているのぞき窓で、炉内の鎮火を確認してから、炉内の灰も付属の灰掻き出し棒を使って、完全に鎮火していることを確認してください。

その後、空気口を全閉にします。

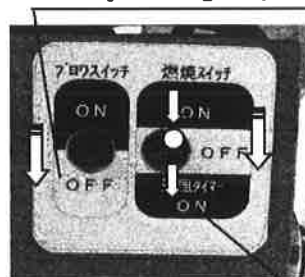


③鎮火確認後、空気口を全閉にする。

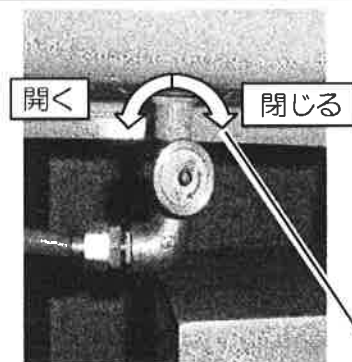
- (2) スイッチボックスのプロウスイッチを『OFF』にしてください。燃焼スイッチを「送風タイマーON」にセットしてください。

自動的に60分間送風運転後、停止します。

①プロウスイッチを『OFF』にする。



②燃焼スイッチを『ON』→『送風タイマーON』にする。



燃料タンク下部の燃料バルブを閉じる。

警告

スイッチボックスの燃焼スイッチが『OFF』又は『タイマー』の位置で焼却運転は、絶対に行わないでください。バーナーが破損する原因となります。

- (3) 燃料バルブを全閉後、電源プラグを電源から抜いてください。

6. 保守・点検

⚠ 警告

炉内及びスパークバー・ノズル等の点検・清掃・調整をする時は、必ず電源を切ってから行ってください。
(電源プラグを抜いてください)
感電するおそれがあります。

- 1) 灰掻き出し棒を使い、灰を炉内から掻き出してください。
灰が溜まらないよう常に炉内を掃除してください。

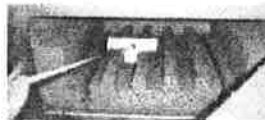
※炉内にたまった焼却灰は、燃焼用空気通風の妨げとなり、十分な能力を発揮することが困難となります。

※灰出し作業時には安全靴・保護メガネ・手袋・マスクを使用してください。

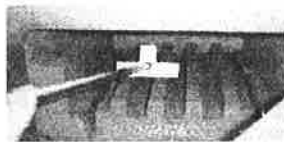
- (1) 側面溝の掻き出し



- (2) 中央溝の掻き出し



- (3) 中央上部の掻き出し



⚠ 注意

取り出した灰は産業廃棄物として処理してください。

- 2) 燃料タンク内の燃料は常に満タンにしてください。

※燃料が少ない状態で保管すると燃料タンク内に水分が溜まりやすくバーナーの炎の失火原因となります。

7. 故障かなと思ったら 現象とその対応

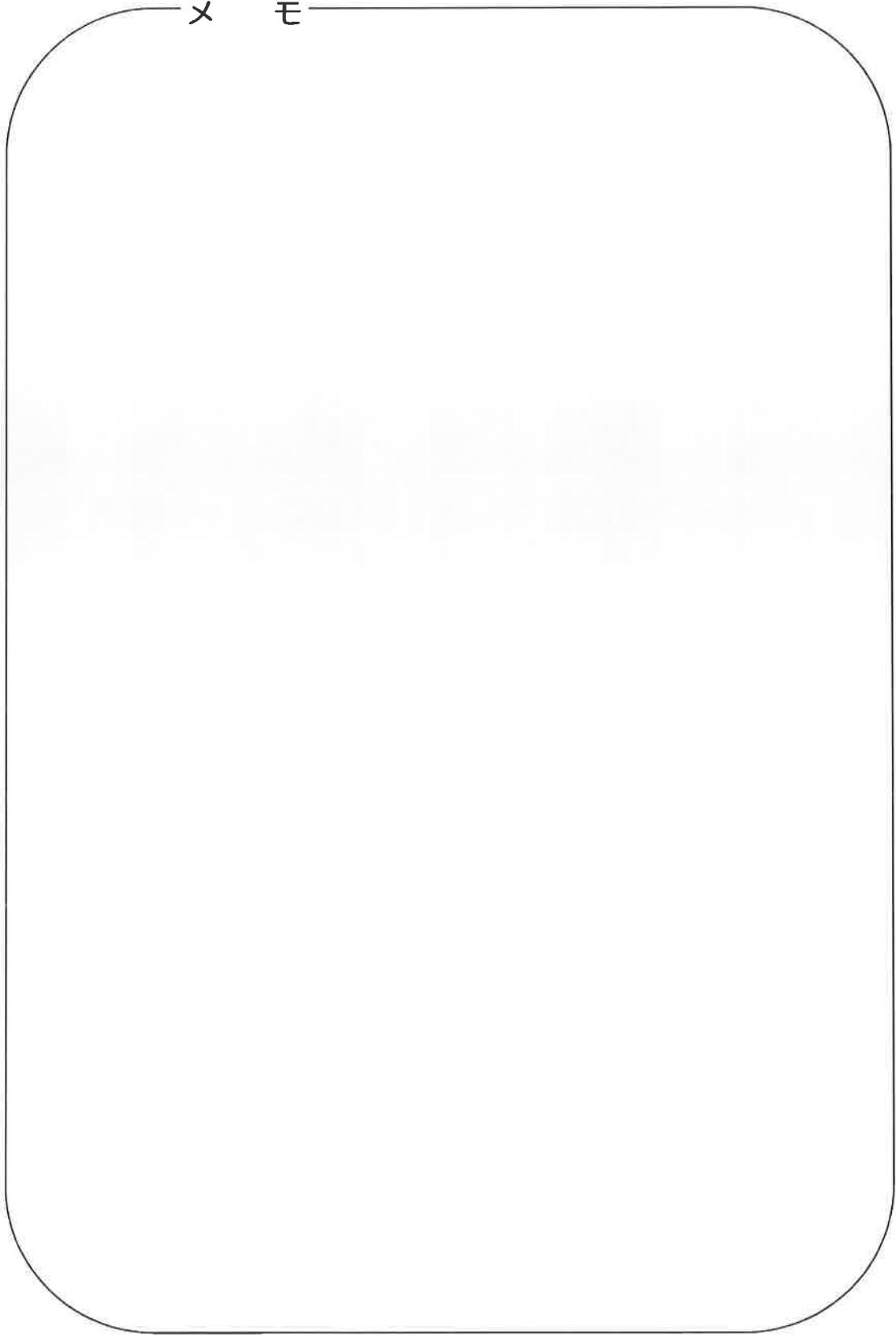
No.	現象	原因	対応
1	煙突から煙が出る。	1) バーナーが停止している。	
		a) 燃焼スイッチが入っていない。	スイッチを『ON』にする。
		■ b) 燃料バルブが閉じている。	燃料バルブを開ける。
		■ c) 燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
		d) 停電時に一時的に通電が停止している。	燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。
		2) 投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
		3) 灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
		4) 発泡スチロール、プラスチック等を大量に燃やしている。	空気口、一次給気バルブを閉め調整を行う。
2	煙突から炎が出る。	5) 一次給気バルブが全開になっている。	一次給気バルブの調整を行う。（閉める方向に回す）
		6) 灰出し口の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。（閉める方向に調整する）
		1) 投入扉が開いている。	投入扉を閉める。
		2) 灰出し扉が開いている。	灰出し扉を閉める。
3	一次燃焼室の燃焼物が立ち消えしている。	3) 一次給気バルブが全開になっている。	一次給気バルブの調整を行う。（閉める方向に回す）
		4) 灰出し口の空気口が全開になっている。	空気口の調整を行う。（閉める方向に調整する）
4	バーナーのファンが回らない。 又はブロワが回らない。	1) 一次給気バルブ、空気口が全閉になっている。	バルブ、空気口を開け、再着火を行う。（着火時のバックファイヤーに注意すること）
		1) 電源が入っていない。	電源をつなぐ。
		2) コンデンサーが破損している。	コンデンサーを交換する。
5	バーナーが点火しない。	3) モーターが破損している。	モーターを交換する。
		1) 電源が入っていない。	電源をつなぐ。
		■ 2) バーナーの安全装置が作動している。	燃料（白灯油）が空になっていないか、燃料バルブが閉じてないかを確認し、燃料（白灯油）を補給するかまたは、燃料バルブを開ける。スイッチボックス内の赤いボタンを押す。
		■ 3) 燃料バルブが閉まっている。	燃料バルブを開ける。
		■ 4) 燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
6	バーナーの炎が消えた。	5) イグナイターが破損している。	イグナイターを交換する。
		■ 1) 燃料が入っていない。	燃料（白灯油）を補給する。
		2) 停電時に一時的に通電が停止した。	燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。
		■ 3) バーナーの安全装置が作動した。	スイッチボックス内の赤いボタンを押す。
7	投入ハンドルが操作出来ない	■ 4) フレームアイが、汚れていて誤作動している。	フレームアイの受光部を掃除する。
		1) 扉を閉めたとき投入物が残っている。	1回の投入物の量を減らす。
		2) ハンドルが完全に引き戻されない。	回転部分に投入物が、かみ込んでいたら投入物を取り除く。

■の対応は、本取扱説明書のP20-②及び注意枠内に記載された、ご購入後はじめてご使用になる場合の操作を再度行ってください。

燃料がバーナーまで届いていない場合があります。

×

ε



回収のために下記のリョービ電動サンダを探しています

対象商品	外観色調	生産時期	製造番号
MS-350	ダークグリーン	1999年～2001年	44001～52000
		2001年～2002年	90001～103000
		2006年～2007年	178001～185000
S-801	ダークブルー	2001年	12001～15730
S-801S	ダークブルー	2000年～2001年	6001～7828
S-801M	グリーン	2004年～2005年	7001～9000

詳細は右のQRコードまたはURLからご参照ください。



<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/notices/2012/07/000371.html>

サービスネットワーク（営業所）

当社サービスネットワークは、右のQRコード
またはURLからご確認ください。



<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/support/network/>

商品のお問い合わせ窓口

ナビダイヤル **0570-666-787**

受付時間：月曜日から金曜日（国民の祝日、当社指定休日を除く）
9時から12時まで、12時50分から17時30分まで

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、
ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

発売元

京セラインダストリアルツールズ販売株式会社

本 社

〒468-8512 名古屋市天白区久方1-145-1

TEL 052-806-5111 FAX 052-806-5141

<http://www.kyocera-industrialtools.co.jp>